



第12回 在宅チーム医療栄養管理研究会 推進フォーラム 2017 記録 ～死への準備教育から学ぶチーム医療の取組み～

日 時：平成29年9月3日(日) 13:00～17:00

場 所：東京家政学院大学 千代田三番町キャンパス 5階 1508教室

参加者：26名、団体会員 5社

司 会：増田 稔(在宅チーム医療栄養管理研究会 副代表)

内 容：

1. 13:00～13:05 塚田邦夫代表挨拶

2. 13:05～14:55 特別講演1

『引導をわたせる人となれ』～死への準備教育のすすめ～

東京・生と死を考える会 世話人 高橋 誠氏

慶應高校での『死への準備教育』、テロメア、三宅速『引導をわたせる医者となれ』、日野原重明『死をどう生きたか』、死への準備教育のすすめ、柏木哲夫『死を看取る医学』、アルフォンス・デーケン『死とどう向き合うか』、Mitsuo AokiとLiving Your Dying、死に行く人々と「スピリチュアリティの覚醒」、ルイス・フロイスの織田信長観、黒澤明と映画「生きる」、佐野洋子と絵本「100万回生きたねこ」、愛と死の神秘をテーマにご講演いただきました。学生生活では学ぶことのない死の捕らえ方について、何かのきっかけがなければ誰もあまり深く考えず過ごしていくことと思われませんが、このような機会により改めて考えることができました。死生観について書かれた本などの紹介もたくさんいただきました。先人の方たちの名言から学ぶ、“今の人生を楽しむことは、良い死を迎えるコツである”という言葉。死ぬことは決して終わりではない、来世に希望をもたなければそこで死んでしまう。生と死についてそれぞれ感じる時間となりました。



3. 14:55～15:30 特別講演2

「在宅チーム医療栄養管理研究会in栗山」の報告～つながれ広がれ地域の輪の学び～

栄養ケアステーション 管理栄養士 佐藤悦子氏



H29年7月30日に、北海道夕張の栗山にて行われた研究会についてご報告いただきました。今回は本研究会だけでなく、日本在宅栄養管理学会北海道支部とタイアップをして実施ということで参加人数80名と大盛況となりました。

夕張地区の高齢化率は50%と高いですが、介護利用率は低い状況ということで、どのようにして多職種連携し、地域の健康をサポートするのか。現在どのような取り組みが行われているのか情報共有されました。

4. 15:30～15:50 休憩

5. 15:50～16:55 特別企画 パネルディスカッション

東京・生と死を考える会世話人高橋誠先生を囲んで

座長：塚田邦夫 高岡駅南クリニック院長

高橋 誠先生・蓮村幸兌・山川 治・鈴木 衛・内田淳一

医師・歯科医師・管理栄養士の立場から、高橋先生と共に質問、意見交換を行い、ご講演いただいた内容をより深めることが出来ました。



6. 16:55～17:00 閉会挨拶 村上奈央子

在宅チーム医療栄養管理研究会 副代表(地域栄養サポート自由が丘)



展示協賛会社

- * ヘルシーネットワーク
- * 日清オイリオグループ
- * 天柳
- * プライムケア東京
- * バランス

次回開催：平成29年11月26日（日）東京家政学院大学 3 階 1302 号にて開催

内容：オーラルフレイルについて等

議事録 文責 岩崎 麻里